

小田原Lエール Vol.22 女性活躍推進優良企業

小田原Lエールは、女性の活躍推進に積極的に取り組んでいる市内の企業などを、優良企業として認定する制度です。認定企業を順次紹介します。

関人権・男女共同参画課 ☎33-1725



市ホームページにも掲載しています。



ダイドーフォワードダイナシティ

当社は、商業施設「ダイナシティ」を運営しており、従業員は女性11人・男性9人と、多くの女性が活躍しています。

それぞれが責任感を持ち業務に当たり「働きやすい環境は自分たちで作る!」を軸に、日頃から、挑戦したい事やアイデアなどの意見交換を、性別や役職に関係なく活発に行っています。また、時短勤務などのワーク・ライフ・バランスを支援する体制も整っているため、育児休暇明けなどでも働きやすいです。

今後も、従業員一人一人が活躍できる職場を目指し、地域の皆さまから愛される商業施設づくりに努めていきます。



Meiji Seika ファルマテック

当社は、女性社員の割合が約6割と、多くの女性が活躍しています。ワーク・ライフ・バランスとキャリアについて考える機会として、女性社員向けに講演会とワークショップを開催したところ、参加者からは「普段、仕事が忙しくてキャリアのことまで考える時間がないが、良い気付きになった」「子育てをする女性同士で意見交換ができて良かった」といった感想が寄せられました。



今後も、社員一人一人が輝きながら働けるよう、家庭と仕事について安心して語り合える場を増やしていきたいと考えています。

中央図書館(かもめ) 30th Welcome to おだやライブラリー

ID P38068 関図書館 ☎49-7800

中央図書館(かもめ)は、開館30周年を迎えました。時代やニーズによって、今までも、そしてこれからも変わっていく図書館の意外と知らないお話を紹介していきます。

最終話 気軽に図書館を利用してみよう!

「読書の場」だけじゃない図書館の使い方

中央図書館(かもめ)には100席を超える閲覧席があり、ゆっくり読書を楽しむことができます。中でも仕切りのある閲覧席は、自習にも最適で学生に人気!土・日曜、祝・休日は、2階の集会室や創作室も学習室として開放しているため、友達と利用するのにもお勧めです。

図書館は「読書の場」だけではなく「勉強の場」さらには「本や人と出会う場」でもあります。新しい生活を始める人も、受験生も、もちろん普段から読書が好きな人も、さまざまな使い方を試してみてください。



あなたのライフスタイルに合わせて

これまで中央図書館(かもめ)のお話を紹介してきましたが、楽しみ方は人それぞれ。新聞や雑誌を読み朝活する、ママ友やパパ友と子どもの読み聞かせに参加する、学校帰りに友達と少し勉強する、仕事終わりに趣味の本を借りに行くなど、ライフスタイルに合った使い方ができることも魅力の一つです。

また、令和2年10月に開館した小田原駅東口図書館は小田原駅直結で、平日は午後9時まで開館しているので、お出かけや通勤・通学の際にも立ち寄りやすくなっています。

ぜひ気軽に図書館を利用してください!

図書館の情報は公式SNSで随時発信中!



誠実 信頼 希望

加藤 憲一

小田原が放ちうる「光」

梅、桜と、春を告げる花々が咲き移ろい、はや4月。今年も本格的な観光シーズンがスタートしています。さまざまな施設の整備、各方面へのステイプロモーション、受け入れ体制の充実など、これまでの官民での各種取り組みが実を結びつつあり、本市の入込観光客数は800万人を優に超え、目標である年間1千万人への到達も近いと感じています。

「観光」は、小田原の経済振興にとって最も効果を生みやすい分野といえます。定住人口増加や企業誘致による経済効果の獲得には一定の時間が必要ですが、小田原が既に有している多彩な地域資源を素材に「人の力」で知恵と工夫を凝らし「おもてなし」を添え、各地から多くの人たちを惹き付け、消費行動につなげることで、短期的に経済振興を実現できるからです。

本市ではこれからさらなる観光振興に取り組んでいきますが、大切なのは「それをどう進めていくか」であります。「観光」は「光を眺める」行動であり「観

るべき光」がこの小田原の中にたくさん存在することが望まれます。では「光」とは何でしょうか。

貴重な名所旧跡、優れた自然景観、品ぞろえ豊富な土産物、多彩な飲食メニューなど、いわゆる観光地としての「素材」は、もちろん不可欠。加えて私は、それらの存立を可能にしている、小田原の農林水産業、各種ものづくり産業、そこで培われた「なりわい」文化、市民の生活文化、後背に展開する豊かな自然といった、いわば「光」のもとになる営みや存在が健やかであることが、極めて重要であると考えています。そして、これらの「光」を担っている生産者、働き手、作り手、売り手、守り手、そして市井の人々が果たす役割が、実は一番大切なのではないかと感じています。

暮らしの近くに歴史遺産があり、自然の恵みを享受し、手作りのなりわいを受け継ぎ、地域に根差した祭礼や文化を大切に、家族のように支え合うコミュニティがある。豊かさや幸せがまちから感じられる。そうした中で磨かれた小田原ならではの、食や暮らし方、まち並みや風景、文化や芸能などこそ、これからの旅人が最も観たい「光」ではないかと私は考えます。

その担い手は観光事業関係者だけでなく、一人一人の市民なのです。小田原全体で、そうした「観光」を育てていきたいのです。